

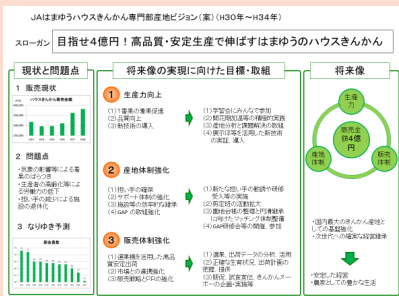
- 南那珂地域の施設果樹（マンゴー、きんかん）では、栽培管理技術のレベルにバラつきが見られるほか、農家の高齢化により、平均年齢は年々上昇しており、サポート体制を産地として構築していくことが課題。
- このため、普及センターでは、両品目の取組項目を明確化することを目的に、産地ビジョンの策定を支援し、産地ビジョンに沿った重点支援を実施。加えて、スマート農業総合推進対策事業を活用し、環境測定装置の測定データに基づく環境制御の有効性を確認。
- その結果、両品目の生産性が向上し、生産額が増加。

具体的な成果

1 産地ビジョンの策定

■ 管内の主要果樹であるマンゴーと完熟きんかんについて、産地の取組項目を明確化した産地ビジョンを策定

① 産地ビジョン
策定数
0 → 2



2 収量及び生産額の増加

■ 出荷実績をもとに、改善が必要な要因を洗い出し、次期作の改善目標を戸別に設定し、実践を促したことで、栽培管理技術が改善。

■ 産地ビジョンで定めた重点技術の普及を図ったことで、着果率が向上。

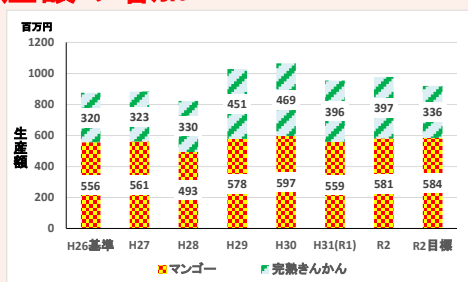
① 収量の増加
マンゴー

1,143 kg/10a → 1,430 kg/10a

完熟きんかん

2,270 kg/10a → 2,708 kg/10a

② 生産額の増加



普及指導員の活動

平成28～30年

■ JA、生産者、市等と産地ビジョンの必要性について共通認識を持ち、現状分析と取組項目の整理を支援し、産地ビジョンを策定。

平成28～令和2年

■ 産地ビジョン策定後も進捗状況の確認を行い、産地ビジョンの着実な実行を支援。
■ 産地ビジョンの内容に沿った重点支援を実施。

- ハウス単位でマトリクス分析を実施し、出荷実績の診断を行うとともに、次期作の目標設定を戸別実施。
- きんかんでは、展示ほを設置し、着果率向上を目的とした開花期加温の技術を推進。
- マンゴーでは生理障害の発生が多いことから、発生状況確認や管理状況調査を実施し、ハウス開閉等の管理資料を作成し、管理方法の改善を推進。スマート農業総合推進対策事業を活用し、細霧冷房による花芽分化期の冷却効果の増強効果と環境測定装置の測定データに基づく環境制御の効果を検証。

普及指導員だからできたこと

・ 農業者、JA等と連携し、課題について一丸となって調査を実施し、改善対策を検討していくことで、**産地の技術的な課題の解決につながった。**

宮崎県

産地ビジョンに基づいた主要施設果樹の生産安定

活動期間：平成28～令和2年度

1. 取組の背景

南那珂地域の施設果樹については、ハウスきんかん及び完熟マンゴーが主要品目であるが、両品目ともに、農家間の栽培管理技術の水準にバラつきが見られる。また、農家の高齢化により、平均年齢は年々上昇しており、サポート体制を産地として構築していくことが課題である。

このため、両品目において、産地規模を維持・拡大することを目的に、果樹産地目標の共有化を行うとともに、産地目標を着実に実行し、生産性の向上を図ることが必要である。

2. 活動内容（詳細）

①果樹産地目標の共有化（平成28年～平成30年）

両品目ともに、農家の高齢化が年々進行し、産地規模を維持することが困難になると想定されたことから、JA、生産者、市等と産地ビジョンの検討を開始した。まず、現状分析として、アンケート調査を実施し、今後の栽培規模の意向等を調査し、長期的な産地規模のすう勢を把握することで、産地戦略の必要性を再度、共有した。

具体的な取組項目については、生産部会でのアンケートや話し合いにおいて、意見の集約を図った。

②栽培管理技術の向上（平成28年～令和2年）

両品目ともに、出荷終了後に、JAの販売・選果データをもとにマトリクス分析を行い、当年産の個人またはハウス単位の実績の確認を行った。実績から、改善が必要な要因（小玉、低等級等）を洗い出し、チェックリストを用いて、要因をさらに細分化し、具体的な対策（例えば、小玉の対策として早期重点摘果を行うなど）を次期作の改善目標として設定していくことで、戸別の栽培管理技術の向上を図った。

また、産地ビジョンにおいて、各品目で定めた重点技術について、管内に展示ほを設置し、学習会等で農家とともに効果を確認することで、技術の普及を図った。

また、マンゴーについては、スマート農業総合推進対策事業のうち次世代につなぐ営農体系確立支援事業（産地の戦略づくり支援）を令和2年度に活用し、環境測定装置と細霧発生装置の導入によるマンゴーの栽培環境改善の効果の検証を行い、今後の技術普及に向けた革新計画を策定した。

3. 具体的な成果（詳細）

①産地ビジョンの策定

両品目について、産地の取組項目を明確化した産地ビジョンが策定され

た。

取組項目には、今後、普及を図る栽培技術が定められたほか、高齢農家園地の生産体制強化対策として、剪定等の共同作業班の活動や販売体制強化として、インターネット販売等の新たな販路拡大の取組等が定められた。

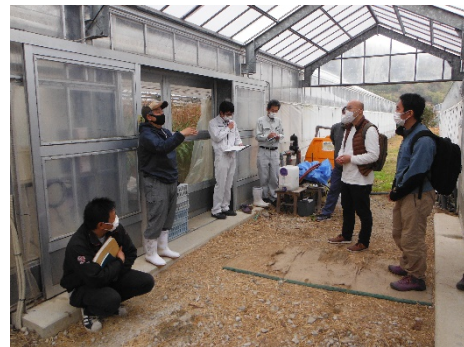
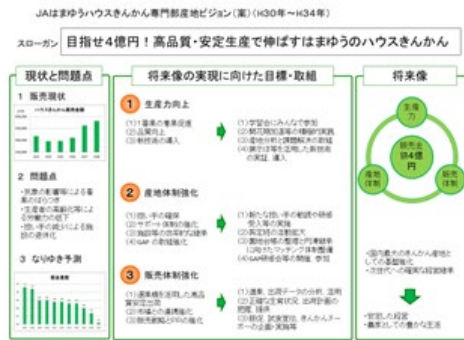
これらの取組は生産部会・JAが主体となって実行されている。

②収量及び生産額の増加

両品目ともに、出荷実績をもとに、改善が必要な要因を洗い出し、次期作の改善目標を戸別に設定し、実践を促したことで、栽培管理技術が改善した。

マンゴーでは、生理障害対策として、ハウスの開閉手順等の改善や、環境測定装置導入により、ハウス内外の環境を把握し、測定データに応じて、ハウスの開閉程度を調整し、ハウス内の温湿度を制御することで、対策園地における収量や等級の向上が見られ、環境測定データを活用した栽培体系の有効性が確認された。

完熟きんかんでは、着果率向上を目的とした開花期加温技術が普及したことで、収量が増加した。



環境制御装置導入検討会の様子

【収量の変化】

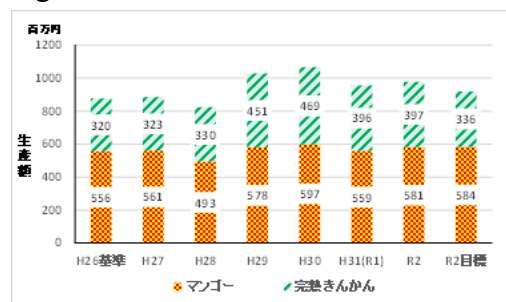
マンゴー : 1,143 kg/10a → 1,430 kg/10a

完熟きんかん : 2,270 kg/10a → 2,708 kg/10a

【生産額の増加】

マンゴー : 5.6 億円 → 5.8 億円

完熟きんかん : 3.2 億円 → 4.0 億円



4. 農家等からの評価・コメント (日南市マンゴー農家・K氏)

マトリクス分析をもとにした具体的な目標設定と実践により、産地全体の収量の増加につながった。

生理障害については、原因が絞られたので良かったが、対策としてきめ細かな換気が必要になり、管理労力が大きいことから、省力的な改善対策の検討を進めてもらいたい。

5. 普及指導員のコメント

(南那珂農林振興局・主任技師・阿部健一)

関係機関と連携しながら、産地ビジョンに掲げた重点取組項目の推進や出荷実績をもとにした次期作の栽培管理目標を戸別に設定し、目標の実践を支援したことで、産地全体の栽培管理技術の向上につながった。

また、スマート農業総合推進対策事業を活用し、試験ほを設置したことで、環境測定データ活用の有効性や花芽分化時期の細霧冷房による冷却増強効果が確認できたことから、今後の技術普及を図る必要がある。

6. 現状・今後の展開等

完熟マンゴーについては、着果安定対策が改善されたことで、産地全体の収量は向上した。生理障害に関しては、発生要因を特定したことで、栽培管理の改善は徐々に進んでいるものの、依然として生理障害の発生が見られる。今後は、試験研究機関等とも連携しながら、有効な対策の検討を進めるとともに、戸別巡回等で実践を支援していく。また、環境測定装置や細霧発生装置の導入を推進し、測定データに基づいた管理方法を普及していくことで、マンゴー栽培により適した温湿度条件へと環境改善し、生産量・品質の向上を図る。

ハウスきんかんについては、開花期の着果安定対策が普及したことで、産地全体の収量は向上したものの、一部園地において、出荷時の果実糖度不足が見られたことから、戸別に対応策を検討していく。また、今後も集合研修を主体として産地全体の技術向上を図っていくとともに、労働力確保や省力・軽労化技術の導入について、関係機関と連携しながら検討していく。